

令和7年度 保育所自己評価

園名 佐賀市立若葉保育所

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。このことに基づき、佐賀市公立保育所では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた、改善や充実に取り組んで参ります。

園目標
心身ともに健康で感性豊かな子どもの育成 ・友達と一緒に元気に遊ぶ子ども ・感性豊かに自己表出する子ども ・食に関心をもつ子ども

【評価結果の表示方法】 ※評価するにあたっては、以下のような基準で行っています。

A：90%以上・・・十分達成されている。

B：70～89%・・・達成されている。

C：50～69%・・・取り組みがされているが、成果が十分ではない。

D：49%以下・・・取り組みが不十分である。

評価項目	A B C D 評価	評価内容
保育方針・保育目標	B	保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有していた。
子どもの発達援助	B	一人一人の子どもや集団の姿をとらえ、全職員で保育を行った。
保護者との連携	B	懇談や送迎時に保育内容や子どもの様子を伝え、保護者に寄り添った対応や連携を行った。
地域との連携	A	子育て支援機関や医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供した。
運営・管理	B	職員の役割分担と責任を明確にし、能率的かつ迅速な対応ができる体制であった。
職員の資質向上	B	実践的研修に取り組み、日常の保育に生かして子どもの育ちに反映した。
健康・安全	B	園内外の危険箇所の見直しや衛生的な保持に努めた。
食育	B	個別に配慮した食事を提供し、子どもが楽しく食べ、食べる意欲が育つ工夫をした。

総合評価

【保育方針・保育目標】

「感性豊かに自己表出する子ども」を目標に、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切に環境づくりを進めてきた。遊びの中で試行錯誤しながら気づきを友達と伝え合い、活動が広がる姿が見られている。異年齢での関わりも増え、学び合う場面が自然に生まれている。自然物や多様な素材を充実させ、子どもたちの遊びがより広がる環境づくりを進めていきたい。

【子どもの発達援助】

子どものつぶやきに耳を傾け、主体性を大切に保育を進めてきた。「やりたい」だけでなく「やらない」という選択も尊重し、子どもが自分で決める力を育てる援助を心がけた。また、園内公開保育を通して多様な視点を得ながら、環境や関わり方の見直しを行った。日頃から職員同士が保育を見合い、気づきを共有しながら学び合っていきたい。

【保護者との連携】

新年度の保護者面談を通して信頼関係を築き、連携と情報共有を深めるよう努めた。メッセージボードでの写真付きの発信や、日々の対話を通して保護者とのコミュニケーションを大切にしてきた。今後、子どもたちの育ちや保育のねらいをわかりやすく伝えられるよう工夫を重ねていく。

【地域との連携】

散歩に出かけたときには、地域の公共施設や近所の方との交流をもてた。警察学校との交流では、学生による安全教育や季節行事を通して互いに学び合える関係が育まれた。また、様々な専門機関と連携し、支援体制を整えながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを行った。

今後も日常的に連携が生まれる関係づくりを進め、地域とともに子どもたちの育ちを支えていきたい。

【運営・管理】

職責や役割を自覚し、日々の意思疎通と助け合いを大切にしながら、園全体の業務を円滑に進めるよう努めた。今後は、気づきを率直に伝え合い、互いの意見を尊重しながら納得いくまで話し合い、方向性を共通理解し、よりよい保育や園運営へとつなげていきたい。

【職員の資質向上】

外部講師による研修や実技の共有を通して、学びを職員全体で広げ、共通理解を深めることができた。共通の学びをもつことで、今後の取り組みの方向性を共有しやすくなった。一方で、研修後すぐに取り組む時間が確保しにくく、意見交換や改善の提案につながらず共有だけで終わってしまうことが課題として残った。

【健康・安全】

怪我や事故の際には職員間で情報を共有しながら再発防止に取り組んでいる。怪我につながりそうな場面を職員間で共有し、見守りの連携をさらに高めていきたい。また、毎月の避難訓練では多様な発達段階にある子どもがより安全に避難できるよう、方法を工夫していく。

【食育】

夏野菜栽培を通して、生長の喜びや収穫したものを食べる楽しみを味わった。また、園のきんかんを栄養士と一緒に調理をして食べることができた。旬の食材に触れたりクッキングを楽しんだりする活動を通して、食への興味を広げ、季節を感じながら五感を豊かに育てていきたい。

来年度に向けた取り組み

～ わらいごえ あふれる かわいい こどもたちが あんしんして すごせるば ～

- ・ 自然物や多様な素材を充実させ、遊びの広がりを支える環境を整える。
- ・ 環境や関わり方を継続して見直し、子どもの自己決定を支える。
- ・ 保護者へ向け、子どもの育ちや保育のねらいをよりわかりやすく伝える工夫を進める。
- ・ 職員同士が日常的に保育を見合い、学び合う機会を増やす。
- ・ 気づきを率直に伝え合える関係づくりを進める。
- ・ 研修での学びを共有だけで終わらず改善や提案につなげていく体制を整える。